

澤田校長×木枝PTA会長 スペシャル対談

令和5年5月某日



1 教育活動で力を入れていることは？

木枝会長：まずはじめに、「教育活動で力を入れていらっしゃる事」について伺います。

澤田校長：朝礼や入学式でもお話ししていますが、今年も「日中の五本柱」に力を入れていきたいと思っています。

具体的には、「挨拶」「学習」「行事」「福祉」「奉仕」の五つです。中でも、中学校を卒業して大人になってからも大切になる「挨拶」については力を入れていきたいと思っています。

木枝会長：確かに、私が学校に来ると、生徒さんたちは元気に挨拶をしてくれます。

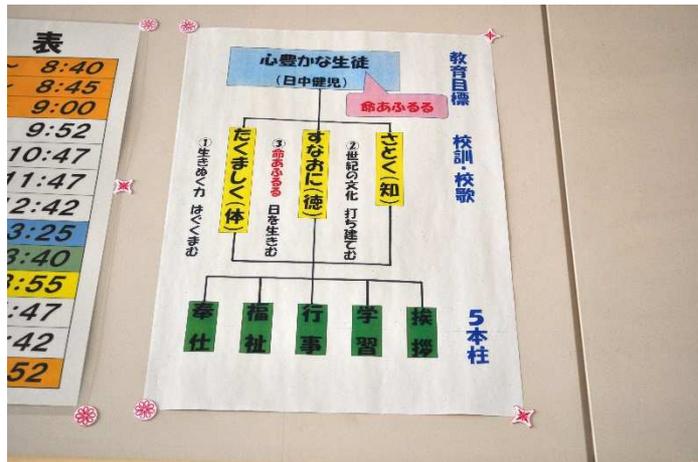
澤田校長：そう言っていただけると嬉しいです。

先日も、南小学校の校長先生に「日中の生徒さんたちの挨拶はよいですよ」とお褒めの言葉をいただきましたので、朝礼で生徒に伝えたところです。

がんばったことを褒めてもらい、認めてもらえることは、生徒にとって何よりの励みになりますからね。

木枝会長：実際に生徒の皆さんにも「五本柱」は浸透しているのでしょうか？

澤田校長：そうですね。始業式や朝礼などで事あるごとに言いますので、「またか」という感じかもしれませんね。



「五本柱」を系統図にしたものがあり、校長室と同じものを各教室にも掲示してあるので、生徒は普段から見ても意識していると思いますし、生徒会役員選挙の演説の中にも「五本柱の『挨拶』に力を入れていきたい」や「五本柱の『福祉』を充実させたい」などの言葉

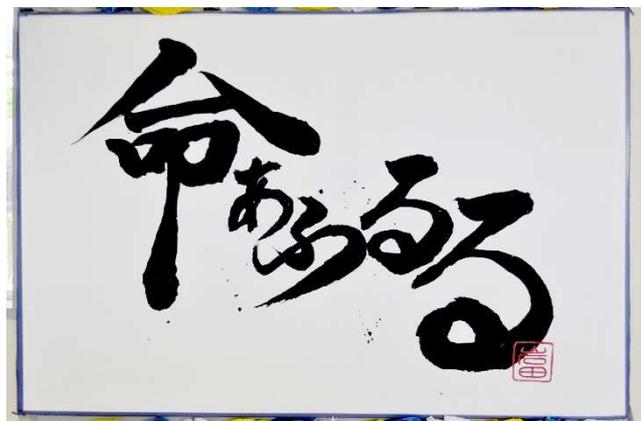
が出てきますので、生徒にきちんと伝わっていると感じています。

2 どんな生徒を育てたいか？

木枝会長：では、そんな日中で、どんな生徒を育てていきたいとお考えでしょうか。

澤田校長：「五本柱」を通して、校歌の最後に出てくる「命あふるる日を生きむ」にあるように命あふるる生徒、心豊かな生徒を育てていきたいと考えています。

元気に挨拶し、学習をがんばり、行事に燃え、福祉を大切にし、奉仕活動などを通して地域に愛され、応援される日中健児になってほしいと思います。そのために、例えば交通マナーを守ることも大切なことですね。



木枝会長：歴史ある日中は、地域にOBの方も多くいらっしゃいますね。

澤田校長：そうですね。本当にそうなんです。おそらく、保護者の半数近くが日中の卒業生だと思います。

何かあると、「日中健児のために！」と言って力を貸していただけますので、地域の方、OBの方に支えられていると本当に感じます。

木枝会長：地区によっては新しい町という印象の日進ですが、以前から地域にお住まいの方も多くいらっやって、日中健児を支えてくださっているのは有り難いことですよね。

澤田校長：本当にそう思います。有り難いことです。

3 日進中学校に対する思いは？

木枝会長：澤田校長ご自身の日中に対する思いをお聞かせいただけますか。

澤田校長：私は、まだ20代の若い頃から中学校勤務を希望していながら、10年あ



まり小学校に勤めていました。ようやく初めて勤務することができた中学校が日中だったんです。

ですので、日中は思い入れも思い出もある学校なんです。

地域から愛される学校、また、今年で77周年と日進市で最も歴史のある学校ですので、伝統も大事にしな

がら、元気と活力のある学校にしていきたいという思いでいます。

4 これからの部活動について

木枝会長：一人の保護者として気になるのが、部活動が縮小傾向になっていくということなのですが、それについてはどのようにお考えでしょうか。

澤田校長：当初は2023年～2025年の三年間が「改革集中期間」とされていたのですが、文科省の方針で「改革推進期間」に変更となり、トーンダウンし予算も削減されてしまいました。

日進市では、市教育委員会に担当部署を設置し、来年度には検討委員会

を立ち上げる予定になっていますので、2025年度には新しい制度を導入していくことになるかと思います。

それまでは、今までと同じ状況で活動していくわけですが、土日返上で部活動の指導を行っている教員の負担は非常に大きいと感じています。先生方は少ない報酬で、ほぼボランティアで部活動を行っているということをご理解いただきたいと思います。

「教員の働き方改革」という大きな流れの中で教員の負担を軽減するために、部活動の在り方を改革し、教員の手を離れて地域の人材による指導に移行していかなくてはならないということを、保護者と地域の皆様にご理解いただけると有り難いと思っています。

木枝会長：名古屋地区では、そもそも運動部の数が少ない中学校もあると聞いています。

中学校では希望する競技スポーツができないため、クラブチームに所属している生徒も多いそうです。



澤田校長：そうですね。

先ほどの「働き方改革」という面からだけではなく、生徒の数が減っていてチームの人数が確保できない場合に、持続可能な活動を行うことができるということも、地域移行化の目的になります。

木枝会長：自分が学生時代には、土日の部活動の時間に当たり前のように先生がいてくれましたけれど、自分が社会人になって親になってみると、とても大変なことなんだと実感しています。

澤田校長：私自身も、かつては女子バスケの副顧問の経験がありますが、先生方は生徒が好きで、部活動が好きでやってくれていますし、感謝されればやりがいもあります。

しかし、時間と労力が必要であることも事実で、あまり「犠牲」という

言葉を使いたくないのですが、やはり、ご自分の時間や家族との時間の多くを部活動に費やしているということになります。

5 コロナ禍以降の活動について

木枝会長：コロナ禍以降の活動について、何か変わったことはありますか。

澤田校長：GW明けにコロナが5類に変わったことで、フェーズが変わって気分も変わったのか、登下校中にはマスクを外す生徒が増えました。

ただ、校舎内に入ると、周りを気にしてなのか、恥ずかしいからなのか、マスクを着用している生徒も多いのが現状です。

木枝会長：これから暑くなってくると、熱中症など心配がありますね。

澤田校長：日中の生徒を見ていると、体調管理や水分補給など、きちんとしているように思います。水筒も持参していますし、校内に自動販売機も設置していますので、上手に活用しているのではないのでしょうか。

木枝会長：制限が解除されたことで、行事も以前のように開催することができるようになるのでしょうか。

澤田校長：そうですね。昨年度も保護者の皆様の観覧は一部制限しながらも、行事そのものは全て予定通りに開催することができました。

昨年度と違う点は、修学旅行の行き先が4年ぶりに東京になったことです。

木枝会長：コロナ禍で入学した生徒さんが、だんだんとマスクを外して友達の顔を見ながら、行事も含めて本来の楽しい学校生活を送れるようになってきたということですね。

澤田校長：コロナ禍の制限が多い中でも、日中はいろいろな工夫や対策をしながら、できる事はやっ払いこうと行事にも取り組んできました。実際に私が日中に赴任してからは中止になった行事はありません。マスクを着用し、距離や換気に気を付けて「日中応援歌」を全員で大きな声で歌うという事も変わらずに行ってきましたが、クラスターが発生することはありませんでした。

制限がある中でも「行事に燃える」という体験は経験することができていると思っています。

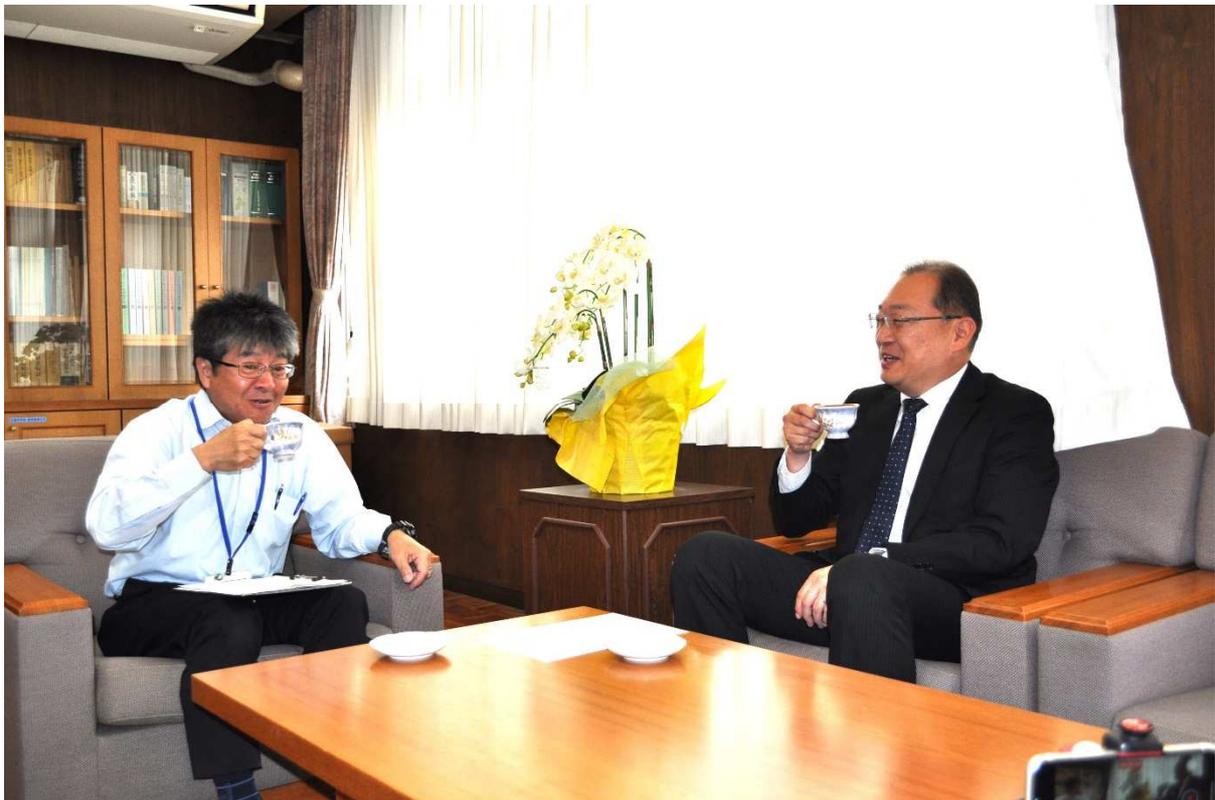
木枝会長：野球の応援も声出しが可能になるなど、いろいろなことが元に戻っていく中で、生徒さんの日中での三年間がよい思い出になるように期待しています。

澤田校長：換気・手洗い・健康観察・せきエチケットなどの基本的な感染症対策は行いながら、生徒の活動は確保していきたいと考えています。

今年度は全ての行事を保護者の皆様にも参観していただけるようにしていきますので、ぜひ、楽しみにしていただきたいと思います。

木枝会長：楽しみにしています。

本日は有り難うございました。



澤田校長、木枝P T A会長、お忙しい中、P T A新聞掲載のために有り難うございました。

初夏の爽やかな風と柔らかな日差しの中、すてきなお話を伺うことができました。文字数の関係でP T A新聞には掲載することができなかった部分を含め、ホームページにて全文を掲載させていただきました。